

令和7年度〔自己評価報告書〕

学校番号	学校名	校長名
13	川崎市立御幸中学校	吉村 尚記

学校教育目標	今年度の重点目標
「心を磨き、地域・社会に貢献できる人へ」 ～自律心・向上心・認め合う心・思いやる心・協力する心・感謝する心～	①基礎・基本を大切にした学力の向上 ②心の通い合う人間関係の育成 ③魅力ある学校の創造 ④市民に信頼される公教育の実現

評価項目	具体的な取組	成果と課題	具体的な改善策
1	指導内容の充実や授業形態及び展開の工夫	「授業でもえがお創造」を教員の合言葉に、全教科でGIGA端末を活用した授業実践を積み上げた。今年度も教科会の時間を設定し、教科担当が授業の進捗や定期テストの作問、評価について意見交換を行い、生徒の実態に即した授業が展開された。理科と美術科の校内授業研究会においても、GIGA端末を活用した授業を公開し、全教員で効果的な活用法について意見交換を行った。総合的な学習の時間(SELF)では生徒の個人探究を学習の柱とし、教科を横断して生徒がより主体的に学習に向かう時間となっている。引き続き実践していきたい。	校内での授業観察、教科会での意見交換により、教員の指導法や指導内容の確認を行い、生徒の実態に即した授業づくりが行えるようになってきている。定期的に開催する校内OJT研修が、経験の浅い教員にとっては日々の業務の不安や課題を解消する場となっており、前向きに教育活動に向き合える職員が増えている。次年度も定期的なOJT研修の開催と複数教科の授業研究会を企画し、授業力の向上を図る。
2	TT,少人数授業を含めた一斉授業の中での習熟度に応じた丁寧な学習指導の推進	数学科では、2年生で1クラスを2つに分けて、学習の定着度に合わせた少人数授業を行い、効果的に指導してきた。英語科では、1年生でTTの授業を実践し、3つの小学校から集まる生徒の学力差を補った。保健体育科では、生徒の意欲を高める種目選択ができるように種目数を増やして少人数指導を行い、成果を得た。少人数だからこそできる個に応じた学力向上のための支援をさらに充実させる必要がある。	英語はTTを行うが、取り出し授業の検討もしたい。数学については、2学年の全授業を少人数で行い、より手厚い支援を行いたい。保健体育では複数の教員で活動を指導・観察できるような、安全配慮を第一に考え、複数種目を選択できるように少人数指導を継続していきたい。
3	心の教育を重視し、いじめや暴力行為が絶対に許されないという考え方の定着	教員が生徒と関わる場面において、生徒の人権を尊重した丁寧な言葉かけや接し方を心掛けている。継続して、いじめ暴力防止の標語作りやポスター制作など生徒が主となる啓発活動を実施している。次年度は職員OJT研修の中で、心理的安全性を大切にした集団のあり方について研修を行い、職員間、生徒間の個に応じた支援のあり方に対する教員の認識やスキルアップをさらに図っていく必要性を感じている。	いじめや暴力を絶対に許さないという教員の認識を深め、日常的に教師の姿勢を生徒に示すことを通して、生徒の心の醸成を図ってきたい。教育相談や効果測定後の検証等を活用して生徒の小さな変化を見逃さず、初期段階で教員が事案を察知し、速やかに事案の解消を図る体制を作って対応できるように研鑽を積む。
4	生徒の内面への共感的理解に基づく相談活動の推進及び支援や指導による良好な人間関係の構築	共生共育プログラム、効果測定や年間4回の教育相談週間を実施し、より良い集団づくりを行うとともに生徒の抱える不安や悩みの解消に努めた。経験の浅い教員も自信をもって生徒対応・生徒指導ができるよう、OJT研修も定期的に開催してチーム支援の体制も整えた。一人の教員で対応できないときには、支援教育コーディネーターやスクールカウンセラー、関係機関と連携しながら生徒支援を行った。	次年度も教育相談の一層の充実し重きを置き、年間の回数を確保してきたい。また、日常的にすべての教員が相談してよい雰囲気をつくり、生徒が困ったときにはすぐに相談できる体制を構築して効果を上げたい。生徒・保護者からの相談等に対しても適切に対応し、必要に応じて関係機関との連携も図りながら、生徒・保護者が抱える悩みや課題の解決を図っていく。
5	一人ひとりの生徒の特性と教育ニーズを踏まえた支援体制の確立	支援教育コーディネーターを中心に支援が必要な生徒情報を全教員が把握して適切な支援につなげている。学習室に教科指導ができる非常勤講師が配置されたことにより、学校を休みがちな生徒や通常の学級に行き渋りある生徒が学習室を利用しやすい環境を整えることができた。また通常学級に在籍していても、教育的ニーズが必要となる生徒に対して、各教員の情報共有から自校通級や学習室へつなぐケースもあった。	次年度も通常の学校生活へ戻るためのステップアップの一手として、学習室を効果的に活用していきたい。通常級に入れない生徒の居場所としての教室だけでなく、放課後、教員との関わりをつくる相談ブースとしての機能ももたせていきたい。また、通常級で困り感のある生徒に対して、校内支援を充実させるための体制を整えていきたい。特に勉強の仕方がわからず学習に不安を抱えている生徒については、「みゆき教室」で個に応じた学習支援を行っていく。
6	自己肯定感・自己有用感が高められる教育活動の工夫・改善	生徒の主体的な参加による学級会活動等での話し合い活動の定着 生徒の話し合い活動を軸とした学活、総合的な学習の時間、各教科の授業実践と検証	学級内で自由に意見が言える場を保障することが、自分たちの学校生活を積極的に見直して改善を図ろうとする姿勢につながるものと考えている。GIGA端末を活用しながら対話の機会を増やし、他者とのコミュニケーションを積極的に図れるようにしていきたい。また、個人探究を柱とした探究的な学習(SELF)を実践し、発展的な考え方が身につくように工夫していきたい。
7	心身ともに健やかで安心・安全な学校づくり	教員個々の適性や能力に応じた分掌配置と職や経験年数に応じた業務配分による機能化と効率化の実現	次年度も職員会議や職員研修において、養護教諭を中心に健康教育の重要性を教職員で共有するようにする。また、生徒の健康教育、安全・安心に関わる研修は次年度も計画し、教職員のスキルアップを図りたい。
8	地域にある学校としての地域・保護者への情報発信及び家庭・地域とともにあゆむ教育活動の推進	地域や保護者が参加しやすい学校行事等の企画及び各種通信等による情報発信 地域行事やPTA活動への積極的な参加 地域関係者の学校行事へ積極的な招聘	日常の生徒の活動の様子を見ていただくために学校公開週間を設定しているが、なかなか学校に足を運んでいただけない状況がある。今年度から本格的にスタートした探究的な学習「SELF」をはじめ、各学年で取り組みを発表する機会を設定し、保護者に生徒の様子を発信してきたい。地域行事には、生徒自身が住んでいる地区の地域行事に積極的に参加できるように環境を整えて協力していきたい。

学校関係者の評価	学校運営のまとめ
<p>○自分たちが掲げた目標が学校のスローガンになっていることが、自発的な行動に結びついていると思うので大変良いと思います。</p> <p>○いつも熱心に先生方をご指導してくださっていると思います。先生方の経験値や年齢が異なっても差が出ないように、指導方法や情報を学年全体で共有していただけたらと思います。精神的に支援が必要な生徒もいると思うので、何か担任の先生の負担を増やさないような仕組みがあればと思います。</p> <p>○総合的な学習でGIGA端末を活用して探究学習を行っているところを参観したが、これから生徒たちにとって一番必要となる学習だと感じた。</p> <p>○今年度は学校公開日を多く設定してくれたが参観者が少なかった。生徒の授業の様子を知る貴重な機会なので次年度も設定してほしい。公開週間の日程が年度途中で変わることがあり、その周知がわかりづらい。</p> <p>○自分の住んでいる地域の祭礼や防災に関する行事に多くの生徒に参加してもらいたい。</p>	<p>○生徒・教員がともに学校生活や各行事において学校教育目標を意識して計画を立て、実践することができた。次年度も「6つの心」を活動に価値づけて学校教育目標の実現を継続していきたい。学校教育目標を改定してから4年目が過ぎ、生徒主体の活動が前年度を踏襲する傾向が見えるので、さらに質の高い教育活動を目指すことを教員・生徒に意識させていきたい。</p> <p>○生徒主体で学校の様々な活動を企画・運営する「えがお創造プロジェクト」を推進する。生徒自身の手によって学校行事の改善を図り、生徒の自己肯定感と自己有用感をさらに高めていきたい。</p> <p>○「授業でもえがお創造」を教員の合言葉に、生徒自身が興味・関心を高め、学ぶ意欲を持ち続けてもらうことを目標に授業改善を図りたい。その際、GIGA端末を有効に活用した授業実践を通して個別最適化の学びに視点を当てた授業づくりも推進したい。また、総合的な学習の時間「SELF」において、生徒自身が関心のあるテーマを探究する活動を通して、将来のキャリア形成に力を入れた。</p> <p>○生徒自身が学校生活をより良くするために声を上げる場をこれから確保し、話し合い活動を通して課題解決する手法を身につけさせたい。</p> <p>○職員のOJT研修については、研修後に職員同士の業務改善や効率化につながったので、次年度も継続していきたい。</p>